



# 天災は忘れたころにやってくる ～非常災害時の対応～



14府県で200人以上がなくなった西日本豪雨から間もなく4年が経とうとしています。倉敷市も真備町を中心として甚大な被害を受けました。当時、我が家の避難対策は大丈夫か、家の中を見回したり、保存食を確認したりしたご家庭も多かったのではないのでしょうか。しかし、年月が経ち、自然災害に対する危機感の風化は認めざるを得ません。「天災は忘れたころにやってくる」という寺田寅彦の警句をもう一度思い起こして、非常災害に対する準備を怠りなく行っていききたいと思うこの頃です。

学校では、火災や地震等を想定した避難訓練（年4回）や、総合的な学習の時間や特別活動等の時間に自然災害の恐ろしさや災害に備えることの大切さを学習しています。特に、3年生は「防災安全マップ」を、5年生は「マイタイムライン」を作成して、「自分の命は自分で守る」の意識のもとに、具体的な避難について考えます。また、地域との合同防災訓練も学校で行っています。

ぜひ、ご家庭でも「もしも…」の時にどのように対応するかについて話し合いを重ねてほしいと思っています。学校、家庭、地域が協力して子どもたちの安全管理を行っていくことが大切です。どうぞ、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

校長 藤井 朗

## 6年 「自然」の中で学んだ「山の学習」!



「ウォークラリー」出発前のポーズ



「目が見えない」って本当に大変だあ!



「ウォークラリー」作戦タイム

みんなで心をひとつに「声をかけ合って」ゴールを目指せ!!



始めの会

6年生107名が倉敷市少年自然の家で『山の学習』に行ってきました。「ウォークラリー」と「暗夜行路」の2つの体験活動の中で、感染症対策や熱中症対策を十分に施しながら、山の生活信条「規律」「友情」「奉仕」を学ぶことができました。

「暗夜行路」の活動

